

1【筆記試験】

	無級		9・10級		7・8級		5・6級		3・4級		2・1級	
	少年	一般	少年	一般	少年	一般	少年	一般	少年	一般	少年	一般
道場訓	○	○	○	○	○	○	○	○				
押忍意味	○	○	○	○	○	○	○	○				
型の三要素	○	○	○	○	○	○	○	○				
空手の定義	○	○	○	○	○	○	○	○				
人体の部位	○	○	○	○	○	○	○	○				
人体の急所	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
立ち方	○	○	○	○	○	○	○	○				
座右の銘									○	○	○	○

《注釈》 小学1年以下の生徒が受審される場合は、道場訓の一部を抜いた虫食いテストになります。全20問。

また5級～無級の受審には数問程度の人体部位・急所、立ち方が出題されます。

緑帯以上においては指定人体急所図が出題されます。(参考例は別途書類参照)小学生は稽古で習った人体急所。

※幼年は口頭テストおこないます。小学2は5個。3年は10個、4年は15個、5年は20個、6年は25個以上漢字を含むこと。中学以上は全て漢字。

※審査における、筆記試験は心量として採点されます。全く覚えていないなどの確認不足、意識の欠落が如実に見受けられる場合は、この時点で不合格とさせていただきます。

2【基本動作試験】

・基本の審査は、技の名称・技の意味・力の強弱・呼吸の取り方・立ち方・全般を通しての力強さ・気合を、現在の帯の段階に合わせて採点を行います。併せて、心量として通常の稽古も考慮し採点を行います。

3【移動動作試験】 責任者確認欄【 】

・1) 白・オレンジ帯(無級～9級)

動作は1, 2手で行われる。移動状態・運足・体の上下バランス・気合・技の理解度を考慮し採点。

・2) 青・黄帯(8級～5級)

動作は複数動作で行われる。技の動作・運足・体の上下バランス・気合等で採点。

・3) 緑帯以上(4級以上)

動作は複数動作に付け加え回転で行われる。技の動作・運足・体の上下バランス・気合・回転における軸のブレ等で採点。

4【柔軟試験】

1) 白・オレンジ帯

柔軟の縦開脚を行った状態でおでこが床につき、静止できること。

2) 青・黄帯

柔軟の縦開脚を行った状態であごが床につき、静止できること。

3) 緑帯以上

柔軟の縦開脚を行った状態で胸が床につき、静止できること。

※ これと別に長座状態から、左右のうち片方の足を後頭部の骨部分にかかとをつける試験も同時に行われる。

9【合宿規定】

帯の色が変わる審査を受審する場合は合宿参加1回必要(但し白帯は除外)。緑帯以上を締めている生徒は合宿参加2回が必要になります。受審時における合宿参加の有無は審査間が適用となり、受審した時にリセットになります。(積算しません)
式・参段を受審する場合、総本部主催の合宿に一回。支部主催の合宿1回の参加が義務となります。
式段・参段受審される場合基本は総本部にて受審を奨励します。山口支部にて受審希望される場合は、東京より審査員の派遣が必要となりますので、こちらの派遣費は受信者の負担となります。また、複数受審者がいる場合は人数割とします。

10【審査合否判断】

1～9の項目が審査基準です。各項目に対して採点を行いますがあくまで基準であり、普段の稽古に対する取組み度・合宿の参加有無等、総合的に見て判断を行います。

【心量】日常における稽古態度や出席率。また大会・合宿・演武等の参加・協力している。

【技量】基本審査や移動審査、型の熟練度や約束組手の理解度等が採点されます。

【力量】補強審査が採点されます。

- ・ 幾ら強くても心が無ければ暴力。
- ・ 技が多彩であっても力が無ければ相手は倒れない。
- ・ 力があっても、相手に当てる技が無ければ無意味

鍛錬することを日々の稽古で心技体が揃って初めて強くなれるのです。漠然と審査を受けるのではなく、全てにおいて基準を超えるよう培っていきましょう。また、年齢や男女による力の差。身体的な理由により、基準をクリアできない方の場合は、イベント(大会協力等)を通じて貢献したものに対しては加点(考慮)を行います。心も立派は鍛錬です。受審される場合は、明確に合格できるイメージをもち稽古を重ねて受審されるようお願いいたします。

【補足1】飛級査定について

審査基準を問題なくクリアし、【心量】【技量】【力量】ともに充実し、締めている帯に恥じないと判断した場合のみ飛級を認めます。これまでのように、合宿参加したから飛級という査定は行いません。特に力量査定において、飛び級することにより練度が低く、帯だけ上がって査定をクリアできない生徒が増えているため2019年3月より、この規定を導入します。なお、飛び級は偶数級の時のみに判断されます。例えば9級の生徒が審査を受けたときはオレンジ帯の査定で審査を受けており、8級の項目をクリアしたわけではないのに、7級となるのは判断的にみて正しくない為です。

【補足2】不合格判定について

これまでは、審査項目がクリアできない場合は再審査として後日クリアしたら帯を渡す形での審査体制で行っていましたがこの体制で、出来なくても後日やれば合格できるという、意識の欠落した受審者がいるように非常に増えてしまいました。空手の昇級審査はいわば資格試験のようなものなので、受ければ全員合格する状況が芳しくありません。よって、意識を高めてもらうために、あえて大幅な審査項目未クリアなものは、不合格とし、次回の審査で受けなおしてもらいたいと思います。この場合は、昇級手数料は一回目で納入しているので、再審査5000円という形での再審査とさせていただきます。少年部で不合格になった場合、辞めていく生徒が以前いましたが、挫折も人格形成・努力する力を養ういい機会になると思いますので保護者の皆さまにおかれましては、ご理解の程と、生徒の頑張る姿を暖かい目で見守って頂ければと思います。

5【補強試験】

	腕立て	ジャンピングスクワット	腹筋	懸垂	逆立ち	棒飛	ボール(少年)	ボール(一般)
無級	10	10	10		三点30秒	ロープ10	身長+5	一律で 2m20cm 2m00cm 1m80cm ※緑帯は 1m80cm を飛後廻し で蹴る。
10級	20	20	20		三点45秒	ロープ10	身長+10	
9級	20	20	20		三点45秒	ロープ10	身長+10	
8級	30	30	30		三点60秒	塩ビ10	身長+15	
7級	30	30	30		三点60秒	塩ビ10	身長+15	
6級	40	40	40		逆立60秒	塩ビ10	身長+20	
5級	40	40	40		逆立60秒	塩ビ10	身長+20	
4級	50	50	50		歩行10m	木棒10	身長+25	
3級	50	50	50		歩行10m	木棒10	身長+25	
2級	60	60	60	10	歩行10m	木棒10	身長+30	
1級	100	100	100	10	歩行20m	木棒10	身長+30	
初段	100	100	100	10	歩行20m	木棒10		
貳段	100	100	100	10	歩行20m	木棒10		
参段	100	100	100	10	歩行20m	木棒10		

- 腕立てでは足は閉じた状態で、床に顎をつけること。膝やお腹が床についたり、号令についていけないもの、また、著しくフォームが崩れる(お尻が上がるなど)している場合も同様に失敗とみなす。
- ジャンピングスクワットは号令についていけない、動作不十分は失敗とみなす。
- 腹筋は頭に手を付けた状態で行う。また腹筋動作中に足が床から離れても失敗とみなす。

6【型試験】

無級	四方型	太極 I	足技太極 I	
10級	太極 II、III	足技太極 II、III	後屈立の型	騎馬立の型
9級				
8級	平安 I、II	組手の型	三戦	足技太極 IV
7級				
6級	平安 III、IV	突きの型	安三(ヤツツ)	足技太極 V
5級				
4級	太極裏 I~III	平安 V	最破(サイハ)	撃塞大(ゲキサイタイ)
3級	鉄騎 I			
2級	平安裏 I~V	鉄騎 II	撃塞小(ゲキサイショウ)	転掌(テンショウ)
1級				
初段	鉄騎 III	観空(カンクウ)	臥竜(ガリュウ)	
貳段	十八(セイハイ)	征遠鎮(セイエンチン)		
参段	五十四歩(スーシーホー)		拔塞(ハツサイ)	

7【約束組手試験】

	無級	3本約手を手技で4手。但し返し技は無し。
	10級	3本約手を手技で4手、返し技を行う。足技2手、返し技は無し。
	9級	
	8級	3本約手を手技で4手、足技2手。返し技を行う。
	7級	
	6級	3本約手を手技で4手、足技2手。返し技から倒しまで行う。
	5級	
	4級	1本約手を手技で4手、足技2手。関節技を行う。
	3級	
	2級	
	1級	1本約手を手技で4手、足技2手。関節技を行う。 逆手(3~5手)
	初段	
	貳段	
	参段	

8【組手試験】

	無級	一人60秒の組手を一人行う
	10級	
	9級	
	8級	
	7級	
	6級	一人60秒の組手を連続して3人行う
	5級	
	4級	一人60秒の組手を行う(但し、連続組手の手伝いがある場合がある)
	3級	一人60秒の組手を連続して5人行う
	2級	一人60秒の組手を行う(但し、連続組手の手伝いがある場合がある)
	1級	一人60秒の組手を連続して10人行う
	初段	一人60秒の組手を連続して20人行う
	貳段	一人60秒の組手を連続して30人行う
	参段	一人60秒の組手を連続して40人行う

※ 淡々とこなすのではなく、相手を見切る力・組手技術・気合を意識して連続組手を行ってください。